

2019年11月配信【第95号】

名銀「アジアビジネスクラブ」

アジアクラブ通信

— CONTENTS (第95号) —

○ トピックス

「タイのプラスチック規制について」

○ 次号のトピックス予告

次回は、インドネシアからの現地情報をご紹介します予定です

タイのプラスチック規制について

＜あなたは1年間で何枚レジ袋を利用しますか？＞

日本において何かを買った時、必ずといっていいほどレジ袋がついてきます。ペットボトル1本、本1冊のような小さなものであってもレジ袋を受け取る方は多いのではないのでしょうか。

廃棄物資源循環学会の調査によると、国民一人当たり年間約150枚もレジ袋を使用しているそうです。何気なく受け取っているレジ袋は果たしてどんな影響を社会に及ぼしているのでしょうか。

今回は、タイでのプラスチック規制、独自の取り組み等をご紹介します。

＜国民の意識の変化＞

2019年8月、タイでジュゴンの赤ちゃんが相次いで亡くなりました。その赤ちゃんジュゴンはタイではアイドルのような存在で国民からの人気を集めていました。解剖した結果、体内からプラスチックごみが見つかったことによって海洋プラスチック問題の深刻化が改めて浮き彫りになりました。翌9月になるとタイ小売大手や業界団体など26社・団体が、来年1月から使い捨てレジ袋の配布を中止すると発表しました。この中には日本人にも馴染みが深いファミリーマートやセブン-イレブン等を展開する企業も含まれています。

来年1月の使い捨てレジ袋配布停止で合意した企業・団体

| | |
|------------------------|-----------------------------------|
| タイ小売協会(TRA) | セントラル・ワトソン |
| エカチャイ・ディストリビューション・システム | バンチャーク・リテール |
| サイアム・マクロ | PTTオイル・アンド・リテール・ビジネス |
| ザ・モール・グループ | PTTグローバル・ケミカル |
| フードランド・スーパーマーケット | タイ・プラスチック研究所 |
| ビッグCスーパーセンター | ダウ・タイランド・グループ |
| CJエクスプレスグループ | バイオディグレートダブル・パッケージング・フォー・エンバイロメント |
| インデックス・リビング・モール | SCGプラスチック |
| イオンタイランド | カシコン銀行 |
| CPオール | PTT |
| ロビンソン | プラスチック・インダストリー・クラブ |
| セントラル百貨店 | タイオイル |
| セントラル・ファミリーマート | セントラル・グループ |

【出所：タイ天然資源・環境省（THE DAILY NNAより）】

ある日、私がスーパーで買い物をした際、店員がプラスチックレジ袋ではなく紙袋に商品を入れてくれました。また、携帯のアプリで食品等の宅配を注文する際も、袋が必要かどうか決めてから注文しな

ければなりません。このように国全体としての環境に対する意識変化をここタイでは実感することが出来ず。

<廃棄プラスチックの行方>

さて、日本国内で廃棄されたプラスチックは一体どうなっているのでしょうか。2019年1月に発表されたJETRO分析レポートでは以下の通り記されています。

一締め出される廃プラスチックー

廃プラスチック（以下、廃プラ）が行き場を失いつつある。東南アジア各国では、廃プラの輸入制限が相次ぎ、2018年に入ってからマレーシア、タイ、ベトナムの3カ国で新たな輸入制限措置が取られている（表1参照）。

表1：東南アジア・南西アジア諸国の廃プラ輸入規制

| 国 | 内容 |
|------------------------|--|
| マレーシア | 2018年7月から3カ月停止されていた輸入許可証（AP）を、許可基準を厳格化した上で10月から再開。 |
| タイ | 一部の港で廃プラ積載コンテナを荷揚げ禁止。2021年までに全面輸入禁止の方針。 |
| ベトナム | 廃プラを含む輸入廃棄物の検査管理を強化。輸入許可基準も厳格化。 |
| ラオス | 輸入制限・禁止を検討中 |
| カンボジア バングラデシュ | 輸入禁止品目に指定 |
| インド インドネシア フィリピン | 輸入制限品目に指定 |

出所： 各種報道・各国政府発表資料を基にジェトロ作成

事の発端は中国だ。2017年12月31日、「海外ごみの輸入禁止と固形廃棄物輸入管理制度改革の実施計画」が施行され、廃プラを含む環境への悪影響が大きい資源ごみの中国への輸入が禁止された。1992年から2016年までの廃プラの全世界輸入量で、中国は約45%を占める輸入大国だったことから、輸出者に大きな衝撃が走った。

(2019年1月10日ジェトロ地域・分析レポートより抜粋)

つまり輸出者である日本で生まれた廃棄プラスチックは過去中国へ輸出していたが、規制により東南アジアへシフトチェンジ。中国に追随する形で東南アジア各国も規制強化に乗り出しているため、今後は日本国内での処理に頼らざるを得ないということになります。

<タイ独自の取組>

次に、タイだからこそ可能となる独自の取組みを2つ紹介致します。

①ペットボトルを僧侶の袈裟に

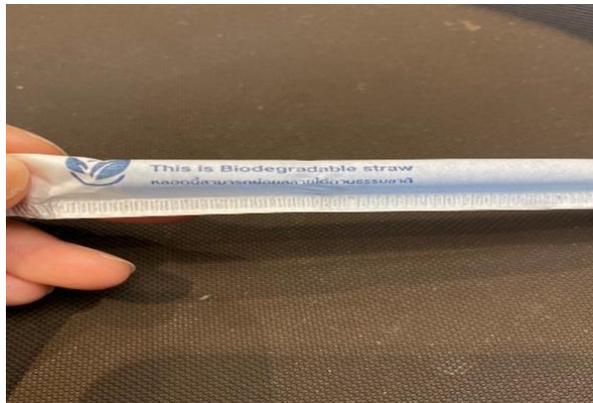
僧侶とは出家して仏教の戒律を守る修行者のことを指す言葉です。袈裟（けさ）は僧侶が身につけている衣服を指します。皆様には馴染みのないことかもしれませんが、タイでは僧侶とすれ違うことは珍しくありません。タイ石油化学最大手PTT グローバル・ケミカルは、寺院と協力して地域で回収したペットボトルから作った再生繊維を使い、僧侶の袈裟にアップサイクルする取り組みを始めています。

②バイオプラスチック生産ハブへ

バイオプラスチックとは製品を堆肥化するなどして自然界に戻すことができるものを指します。タイはそのバイオプラスチックの原料であるキャッサバやサトウキビの世界的産地であります。ある技術を利用して紙コップをバイオプラスチックでコーティングすると、土中で6ヶ月以内に分解できるそうです。「タイの東大」と呼ばれる国立チュラロンコン大学では実際にこの紙コップが提供されています。若い世代からエコに対する意識改革は進んでいます。

【写真はバンコクの街中で見かけるエコ関連製品。（筆者撮影）

左：再生可能プラスチックでできたストロー。右：再生可能繊維でできたナプキン】



<最後に>

世界的にも注目されている廃棄プラスチック問題。その解決策としては「技術革新」ではなく「意識改革」の方が重要なのではないのでしょうか。各国特有の事情や習慣があるため取組み方は様々ですが、持続可能な社会の実現に向けて、まずは国民一人一人が当分野に深く関心を持つことが大切です。

名古屋銀行 法人営業部 タイ駐在
鈴木 誠

【参考】

- ・参議院常任委員会調査室・特別調査室 我が国のレジ袋規制に関する動向

https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2019pdf/20190603077.pdf

- ・JETRO 地域・分析レポート「プラスチックはもういない!？」

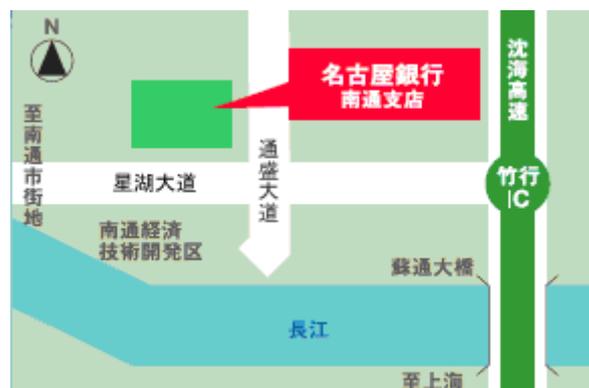
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2019/0101/65eed0d39714520c.html>

- ・The Daily NNA タイ版 第 06028 号
- ・The Daily NNA タイ版 第 06029 号
- ・The Daily NNA タイ版 第 06039 号

名古屋銀行の中国拠点

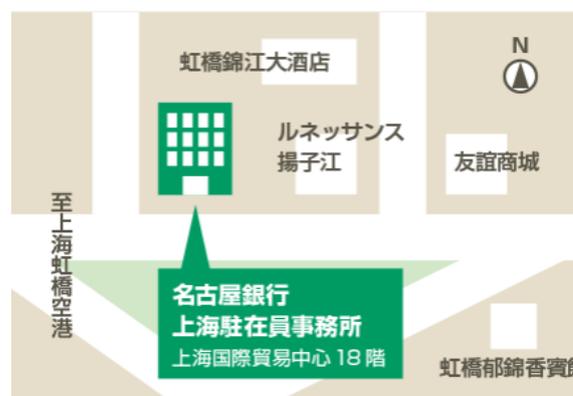
■ 南通支店

中国江蘇省南通市経済技術開発区
通盛大道 188 号 創業外包服務中心C楼
2F
TEL: <86>513-8919-2280
FAX: <86>513-8919-2281



■ 上海駐在員事務所

中国上海市長寧区延安西路 2201 号
上海国際貿易中心 1809 号室(18階)
TEL: <86>21-6275-4207
FAX: <86>21-6275-9461



<ご注意>

- 法律上、会計上の助言: 本誌記載の情報は、法律上、会計上、税務上の助言を含むものではありません。
- 法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください。
- 秘密保持: 本誌記載の情報の貴社への開示は貴社の守秘義務を前提とするものです。当該情報については貴社内部の利用に限定され、その内容の第三者への開示は禁止されています。
- 免責: 本誌記載の情報は、弊行が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。弊行は当該情報に起因して発生した損害については、その内容如何にかかわらず一切責任を負いません。
- 著作権: 本誌記載の情報の著作権は原則として弊行に帰属します。いかなる目的であれ本誌の一部または全部について無断で、いかなる方法においても複製、複製。引用、転載、翻訳、貸与等を行うことを禁止します。

【事務局】 名古屋銀行 法人営業部 国際ビジネス推進グループ

TEL: 052-962-9522 FAX: 052-962-6043